

# 楽しみ方いろいろ 植物観察

日本植物友の会 参与  
加藤 裕一

## 【講師プロフィール】

名前: 加藤 裕一(かとう ゆういち)

学生時代は、植物学、特に植物生態学分野に進学。

卒業後は自然環境調査や科学コミュニケーションに取り組む。

植物の調査や自然科学に関する講座に従事。

現在、公益社団法人 日本植物友の会参与。

2022年10月20日

## 薬草教室

### 「楽しみ方いろいろ 植物観察」

植物のどのような点に特に関心をお持ちでしょうか？花の美しさや多様性、人とのかわり、俳句の題材として、森の中を歩くのが気持ちいい、等々、様々な声が上がると思います。植物は、各自の興味・関心に応じて気軽に楽しむことができる存在です。大きさは、10cmにも満たない小さな草から20mを超える大きな木まで様々ですが、葉や花は比較的観察しやすい大きさのものが多くあります。遠くから景色として眺めたり、あるいは近づいて花のつくりを調べたり、観察する距離も自由に設定できます。また、遠方に出かけなくても、近所の公園など手近な場所でも十分に多様で個性的な植物たちに出会えます。

植物は、私たちの生活や風習に極めて深くかかわっています。広く文化や芸術の源泉になっていることも明らかです。また、植物を観察することは、自然科学への道へとつながるきっかけにもなっています。美しく、面白く、そして沢山の不思議が詰まった植物に接することで、好奇心は大いに刺激され、また、豊かな感受性も育まれるのではないでしょうか。

植物は、ずっとそこに居てくれます。これは、植物の本質的特徴であり、また、観察するうえで大きな利点になります。まず、近づいても、葉に触れても、逃げません。心行くまで観察できます。また、繰り返し同じ個体を観察できる点も極めて大きな利点といえます。例えば、特定の個体が一年をどのように過ごしたか、〇月×日に咲いたあの花が結実したかどうか、見届けることもできます。接近して観察できる利点、そして繰り返し観察できる利点を大いに活かして植物観察に取り組んでもらいたいと思います。花を見かけたら、正面や側面など様々な角度から見てみましょう。また、例えば薬用植物園を訪問した際には毎回同じコースを一度歩いてみる、というのもおすすめの観察方法です。植物が着実に成長し変化していくことを実感できるでしょう。注意深く観察していると、身近な植物にも、何かしら発見があります。自分で気づいた発見は、植物観察を続ける大きな原動力になると思います。

植物観察においては、虫眼鏡やルーペがあると便利です。最近ではライト付きのルーペなども手ごろな価格で販売されています。植物のミクロの造形に、はっとさせられることでしょう。マクロ撮影ができるデジカメもありますので、それを活用するのも良い方法です。また、これは古くから言われていることですが、植物観察においては、やはりスケッチすることが一番効果的だと思います。スケッチする際には、うまく描く必要はありません。美しい、面白い、これは何だろう、などと感じた部分だけでよいので簡単

なイラストで描いて記録してみたいかでしょう。その植物のことが格段に強く印象に残ると思います。スケッチは、植物を丁寧に観察する習慣をつける良い方法です。

植物観察において、もう一つ古くから言われることは、五感を用いた観察の重要性です。視覚だけでなく、嗅覚、触覚、味覚、聴覚なども用いて植物に親しむことで、植物からより多くの気づきや感動を得ることができます。例えば…

- ・花が咲いていたら、積極的に香りを嗅いでみましょう。花の香りは、ロウバイやクチナシなど特に強いものは本でも紹介され、匂いを思い出せる方も多いと思いますが、それ以外の花の香りについてはあまり紹介されていません。しかし実際にあれこれ嗅いでみると、何らかの香りを持つ花をつける植物は身の回りに結構あることに気づきます。甘い香り、せっけんのようなさわやかな香り、これはちょっと…という香り、など様々な香りがありますので、香り探しを楽しんでみましょう。なお、香りの感じ方・好みはかなり個人差があります。一緒に嗅いでみて、家族・友人の皆さんとあれこれ意見を出し合ってみるのも面白いでしょう。
- ・植物に触れてみることも重要です。葉の硬さ、毛深さ、ザラザラ感など、実にいろいろな感触が得られます。肉眼では分からない植物の特徴を直接感じ取ることができる点で、触れてみることはとても有意義です。また、例えば春から初夏にかけて繰り返し葉を触ってみることで、芽吹いた直後のやわらかくみずみずしい葉が、徐々に強度を増してくる様子なども分かり、植物がしっかりと成長していることを実感できると思います。

植物は、私たち動物とはかなり違った生活をしているため、はじめのうちは少々とっつきにくいかもしれません。また、図鑑を開くとあまりなじみの無い用語がいくつも目に留まると思います。植物観察を始めて間もない、という方には、植物観察会に参加されることをおすすめします。現在、様々な施設や団体による自然観察会が各地で行われており、植物を対象としたものも少なくありません。植物観察会では、上記のような植物の様々な観察方法や視点を体験することができ、また、植物に関する基礎知識も自然に習得することができます。

～ ～ ～

今回の薬草教室では、

- ・植物にぐっと近づいて観察した事例
- ・植物の成長過程を継続的に観察した事例

を中心に紹介したいと思います。

◆立ち止まると見えてくるもの

紹介予定の植物

- ・ニワトコ
- ・セイタカアワダチソウ  
など



◆ミクロの造形

紹介予定の題材

- ・種子の造形
- ・葉脈の造形  
など

◆継続観察：花から果実へ

紹介予定の植物

- ・コブシ            ・ドウダンツツジ
- ・キチジョウソウ    など

